

各ダムの概要

※完成年順に掲載

ひきはら おんすいこ 引原ダム（音水湖）

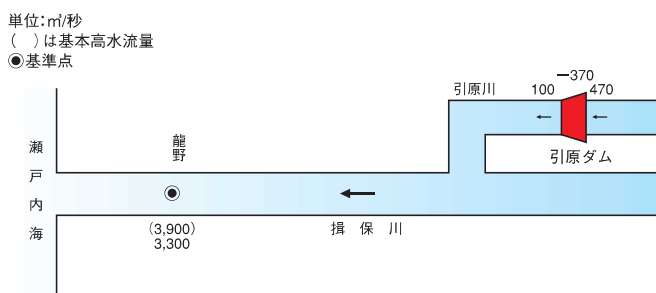


【概要】

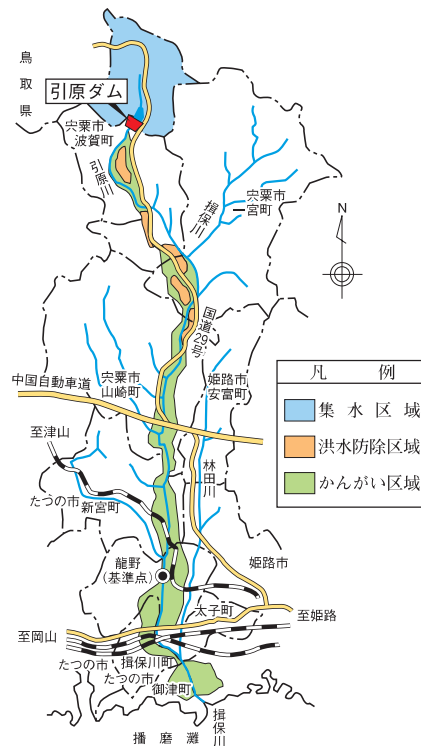
引原ダムは昭和17年度に揖保川河水統制事業としてダム及び発電工事に着手しましたが、太平洋戦争により労務・資材の供給に支障をきたし工事を一時中止しました。昭和28年度に揖保川総合開発事業として建設が再開され、昭和32年度に完成しました。

引原ダムは、ダム周辺地域の活性化とダム湖の利活用を図るため、親水護岸やダム湖畔公園等の整備を行いました。音水湖では、カヌー教室やカヌー大会が開催され、多くの人に利用されています。

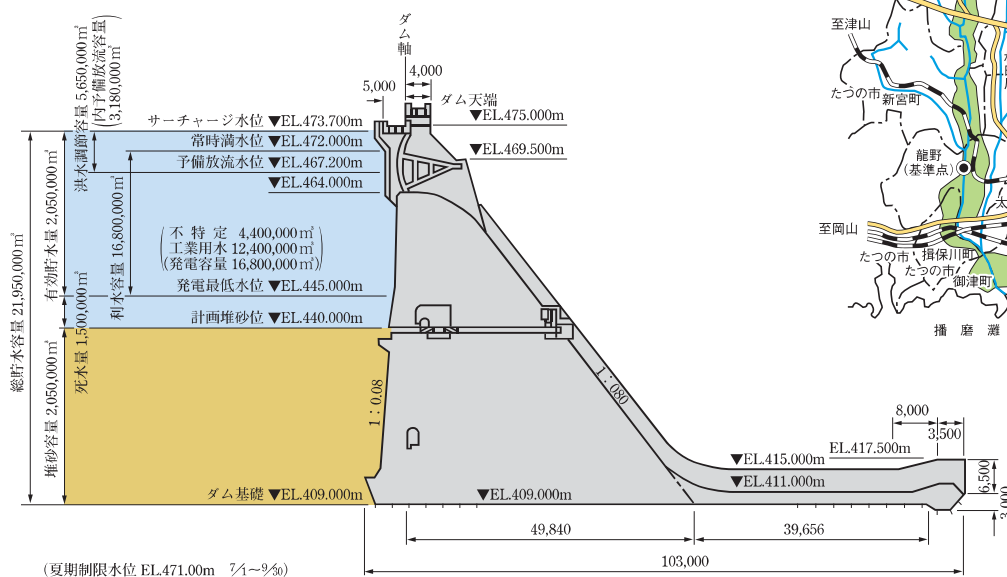
流量配分図



流域図



標準断面図・容量配分図



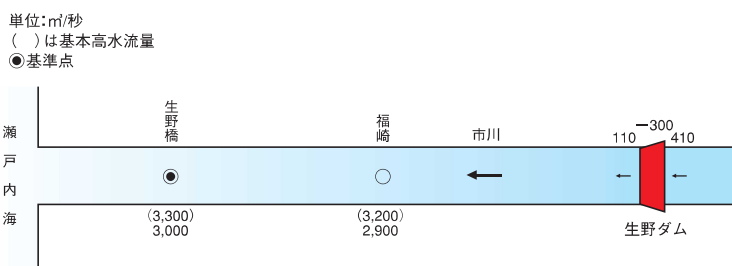
いくの ざんざんこ 生野ダム (銀山湖)



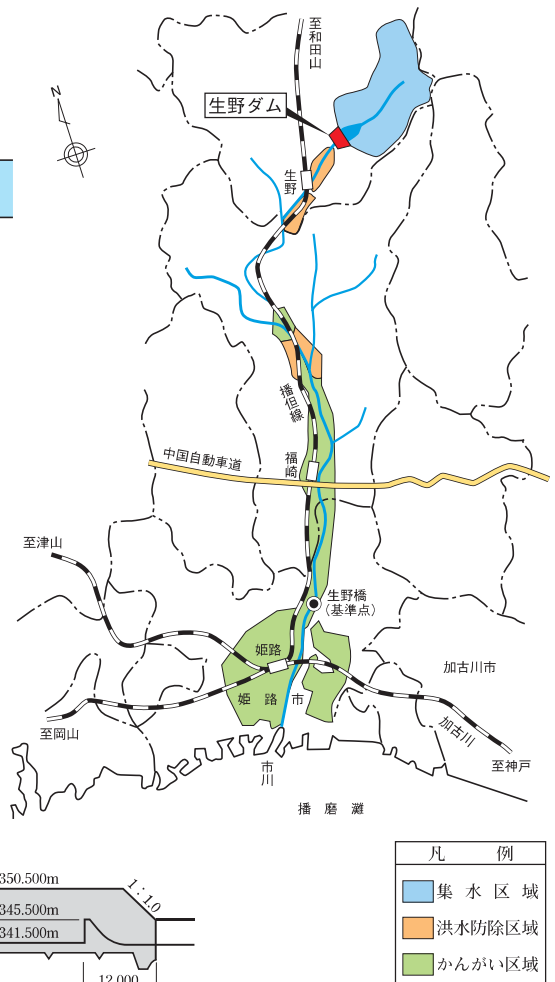
【概要】

生野ダムは、播磨工業地帯の飛躍的な発展に伴う都市用水の不足を補うとともに、市川沿川地域を洪水から守るために建設され、昭和47年度に完成しました。昭和56年度からダム周辺環境整備事業により野営広場などが整備された「銀山湖」周辺は、上流の黒川渓谷とともに「ひょうご百景」の一つに選ばれています。

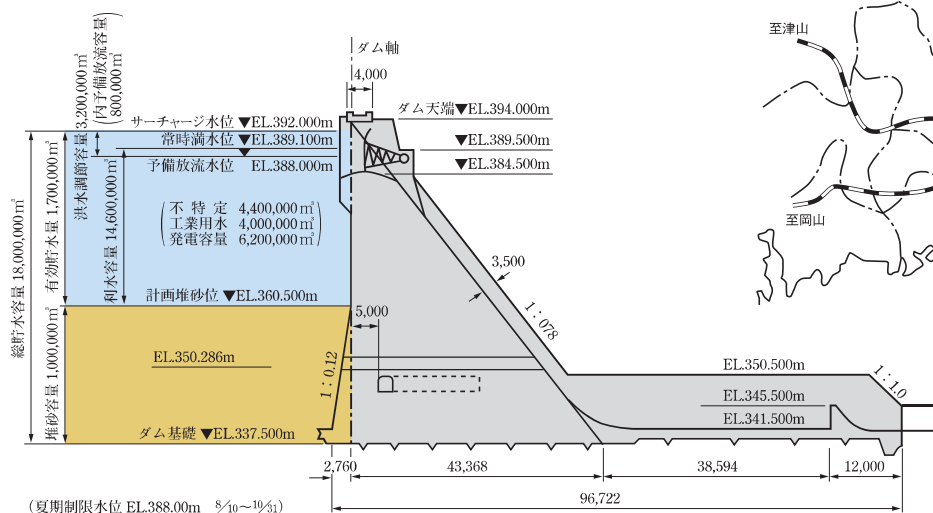
流量配分図



流域図



標準断面図・容量配分図



ゆづるは 論鶴羽ダム (論鶴羽湖)



【概要】

昭和40年の台風23,24号により三原川沿川は多大の被害を受け、これを契機として論鶴羽ダムが治水ダムとして計画され、昭和49年度に完成しました。

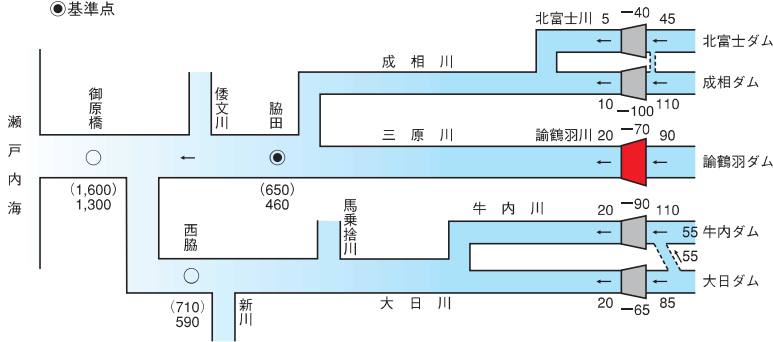
ダム直下の市営サイクリングターミナルの設置や昭和56年度からダム周辺環境整備事業により貯水池周辺が整備されたことから、地域の人々の憩いの場として多くの方に利用されています。

特に貯水池周りの桜並木やダム下流の道路法面に植えられたスイセン、貯水池上流のホテルは訪れる人々の目を楽ませています。

また、従来バルブにより洪水調節していましたが、ダム管理の省力化と洪水調節の確実性のため、平成16年6月の洪水期より自然調節方式ダムとして生まれ変わりました。

流量配分図

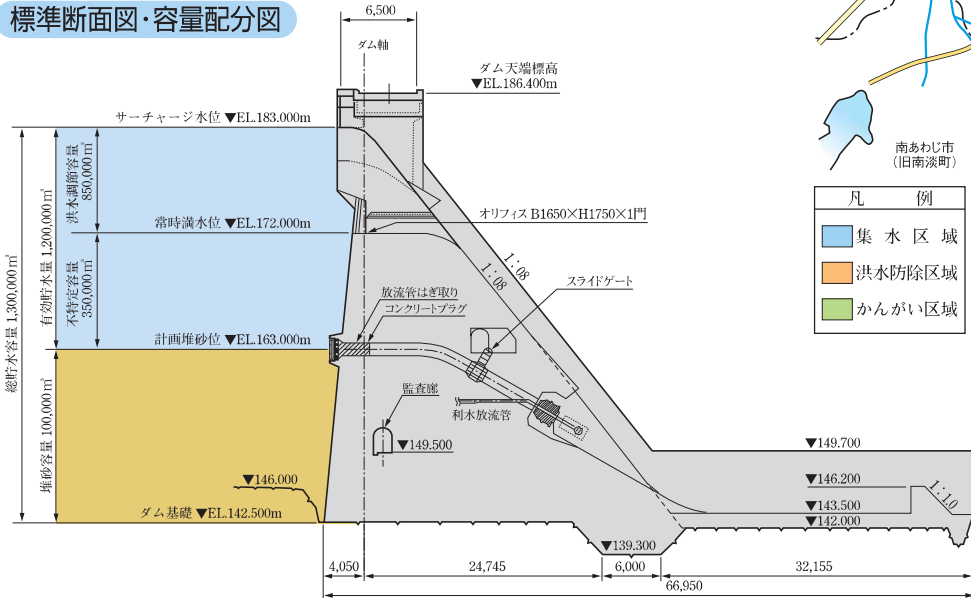
単位:m/秒
()は基本高水流量
●は基準点



流域図



標準断面図・容量配分図



菅生ダム (明神湖)



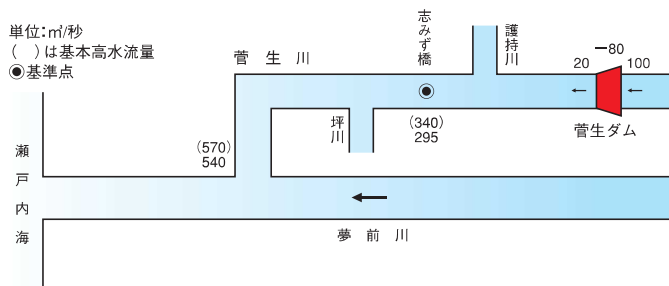
【概要】

播磨工業地帯の背後地として急速に宅地化が進んだ菅生川沿川地域の洪水対策と、菅生川に係わる既得水利に対する水の補給などを目的として菅生ダムは建設され、昭和53年度に完成しました。

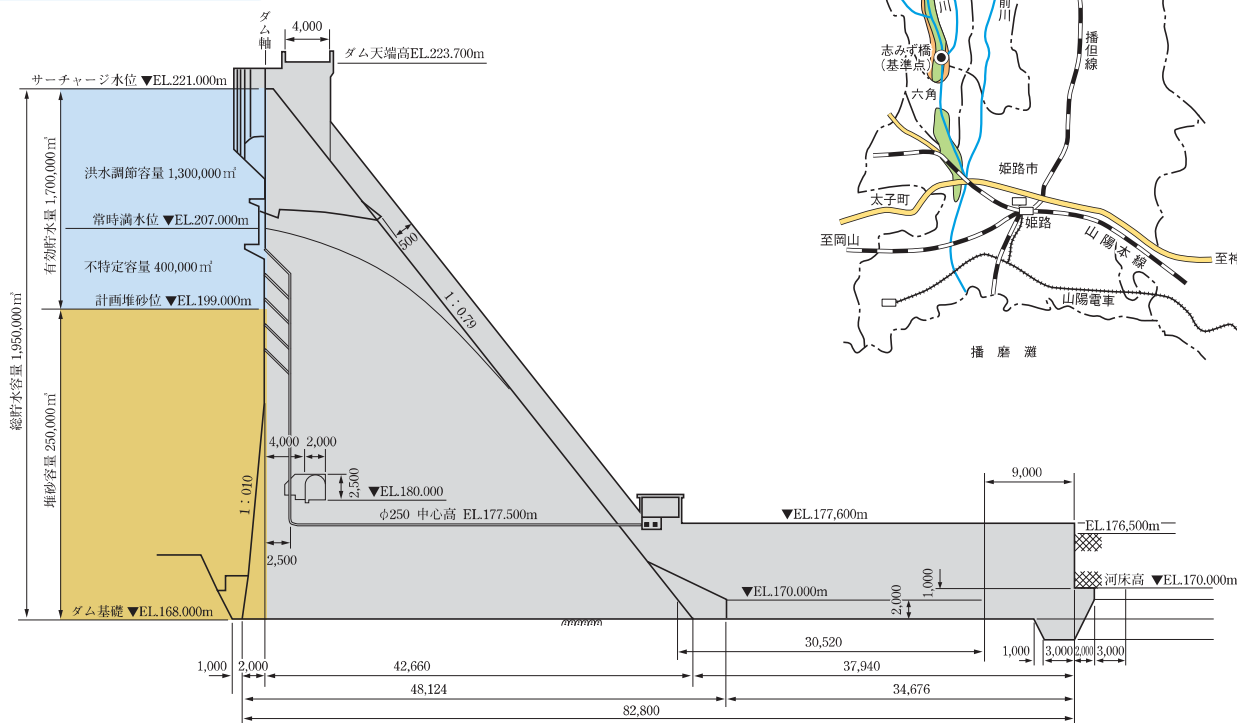
また、環境整備がなされた明神湖周辺は地域の人々の憩いの場として利用されています。

また、従来ゲートにより放流を実施していましたが、ダム管理の省力化と洪水調節の確実性のため、平成23年1月より自然調節方式ダムとして生まれ変わりました。

流量配分図



標準断面図・容量配分図



流域図

